

エララバドやカーブールの近郊には澤山あるのに、其の中間地區には皆無であるのも矢張り同様の理由に因るものである。(但し、此の途上ではクルド・カーブール Khourd-Kaboul とニムラ Nimla の附近に比較的孤立した若干の建物のあるのは見たことがある。)

Le Kapiga — 全線の大部分峻嶒な側壁に厭せられる前記の長い隘路で、何の獲る所もなく、單調極まる行程を辿つた法師の勞も何時しか報いられて開谿地に出で、秀麗な山脈の抱擁する中に展開したカピシヤの沃野に達するを得たものである。此の曠野は南北約六十東西約二十吉米突、此處に若し湖水があれば實に小カシユミールと謂ふべき地形で、不等邊四角形を爲す此の平地の北端は永久の雪を頂くヒンヅクーシユ山脈を負ひ、他の三方が「黒嶺」に圍まれる有様、誠に玄奘法師の記述に見る通りである。此處に法師が「黒嶺」と言ふのは、夏季に雪を頂かない山々と解すべきであるが、西側山脈では雪解けの季節も遅く、パンガーン Panghan の峯々などは七月まで白雪を頂いてゐる。カピシヤは其の位置の關係上ヒンヅクーシユ越の主要な道を支配し、従つて